

第 1 回活力元気部会の意見整理
(ターゲットごとに分類)

【子ども】

ポストイット	発言概要	実現への課題・障害
地域の伝統文化を子育ての中で傳承していく	子育て過程において、射水市の伝統文化教育等を実施して、地元へ愛着を持ってもらう。	<ul style="list-style-type: none"> ・親の地元への愛着不足、地元や伝統文化に関する知識不足 ・伝統文化教育等の担い手不足 ・実施主体の検討（学校現場で行えば全員を対象にできるが教員の多忙化等の問題、学外で地域主体で行えば一部児童生徒のみが対象となる）
漁業者の生活体験 子どもたちに	職場体験（漁業者の生活体験を実施した経験がある）	<ul style="list-style-type: none"> ・漁業者の協力が不可欠

【若者・学生】

ポストイット	発言概要	実現への課題・障害
県外出身の射水市内の大学・短大・高専・専門学校学生の卒業後に第 2 のふるさととして関わる仕組みづくり →在学中に地域に関わる仕組みづくりが必要	県外出身の射水市内の大学・短大・高専・専門学校学生の卒業後に第 2 のふるさととして関わる仕組みがあると良いと思う。	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな仕組みの検討 ・現在も仕組みがあるが機能していない → 学生のまちづくり事業 ・地域住民側の受け入れ体制 ・地域住民、学生が困ったときの相談先

ポストイット	発言概要	実現への課題・障害
県立大の規模拡大	県立大学の規模を拡大して、大学生をたくさん呼ぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 少子化の中での必要性 ・ 国の許可が必要（市でコントロール不可） ・ 学生の確保、居住環境
地元就職 大学と地元企業の連携 体験カリキュラム	大卒者の射水市への就職率を上げる。大学のカリキュラムの中に地元企業との連携を増やし、大学在学中から射水に残って働きたいと思ってもらえる風土を醸成していく必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学の理解 ・ 市と企業との連携不足 ・ 地元企業の協力体制の構築 ・ 学生が希望する職種、業種の創出、マッチング
空き家活用→オーナーチェンジ委託 ・ 賃貸住宅 ・ 店舗への活用	個人で若者が店を出したいニーズに応える。場所がない、支援を受けられないといった課題をよく聞く。そこで空き家の活用などできれば良いと思う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 空き家の所有者不明 ・ 空き家売却への抵抗感、所有者の理解 ・ 改修、開店経費負担、ノウハウの不足
女性の働く場の提供 その為の発信 学生向けなど	女性が都会の大学に行って戻ってこないのは、地元で働く場所がないから。地元の人々が努力して、喜んで戻ってきてもらえるようにする必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 女性への情報提供（発信）の仕組みづくり ・ 女性が働きたい職種の把握、確保
若い女性がもどってくるには、郷土愛をはぐくむ教育が重要		<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育に合わせて家庭教育が必要 ・ 郷土愛を育むコンテンツの発掘、活用
射水のまちを体験 学生→大人になって思い出す→ 30代、40代に来てもらう	職種・働き方を20代でみるのではなく、30～40代になった時に戻ってこられる仕組みを考えても良いと思う。そのために生活満足度を上げ、発信してもらうことが重要。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的な取組の検討 ・ 戻りたくなる体験コンテンツとは ・ 継続して発信する仕組みづくり
若者の出会いの場の創出	若者の出会いの場の創出。人と人の出会いのみならず、食べ物との出会いや伝統芸能との出会いなど、そういったものと触れ合える機会・場を提供すればつながりが生まれると思う	<ul style="list-style-type: none"> ・ 取組の実施主体の検討 ・ 若者の参加促進

ポストイット	発言概要	実現への課題・障害
空き家を利用した学生シェアハウス	空き家のシェアハウス	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家の権利と持ち主の理解 ・民間事業者によるニーズ把握
学生が住める賃貸物件が少ない 結果、小杉駅の乗降者でしかなく、学校の割に若者が少ない	家賃が高いと学生が住まない→学生が増えない→賑わいが生まれない→施設等ができないの循環になる。学生は車もない人が多く、近場に住みたいと思うので、住宅関係について考えることができればと思う。	<ul style="list-style-type: none"> ・民間事業者において検討する事項
自治体と学生の交流 (その地区の活動 消防団などに参加することで家賃半額など)	自治体と学生の交流。例えば消防団に参加することで家賃補助があるなど。	<ul style="list-style-type: none"> ・可能だが補助に関する合理的な説明が必要 ・対象となる活動の種類、頻度、金額等

【現役世代】

ポストイット	発言概要	実現への課題・障害
地域に関わる現役世代を応援する機運を高める	地域に関わる現役世代を応援する機能を高めると良いと思う。	<ul style="list-style-type: none"> ・現役世代、職場等の理解促進 ・地域側の受入れ体制、理解 ・応援の内容
現役世代の人が利用しやすい空き家の情報網を作る	現役世代が活用しやすい空き家の情報網（アプリの活用など）	<ul style="list-style-type: none"> ・実現可能（市ホームページでは「空き家情報バンク」を掲載中）

【市民全般】（コミュニティ、暮らし）

ポストイット	発言概要	実現への課題・障害
ふだんの日常では交わらない方々とのコミュニティを求めている	普段交わらない方々のコミュニティがあれば良いと思う。	<ul style="list-style-type: none"> ・漠然としており具体性に欠ける ・ターゲットの絞り込み（誰が誰と？） ・市民自らの情報発信力

ポストイット	発言概要	実現への課題・障害
<p>継続して行えるようなイベント（海のゴミひろいでも、マルシェでも、ロードバイクの走ろう会でも）を行って、大人のコミュニティを確立させて、射水を起点になんとか集まる空気とかルーティンを作る キャンプ うみで はやりそう！</p>	<p>コミュニティをよく求められている。仕事で交わる以外の非日常を求められる傾向が高い。定期的に行うイベント、チームでの活動を確立していくことが大事だと思う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・気運の醸成 ・継続的かつ多様な人の参加促進
<p>イベント団体の意見交換の場 勉強会</p>	<p>イベント団体の意見交換会、勉強会の場の提供。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実現可能
<p>空き家 居住実態なくなる時点で対策に着手 数年たったら手遅れ</p>	<p>空き家の認定までの期間を短くする。（基準緩和）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・情報収集のあり方
<p>DXは「住み易さ」のための重要なツール</p>	<p>DX…見える形でどのように実施していくかが課題。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者など普段利用しない人へのフォロー ・DX人材の育成、教育
<p>空き家活用、発生抑制 地元（集落ごと） ・出前講座 ・住教育カード 集落、街の人が一つになる 結の心 そしてその村、街の得意、めだつもの PR、SNS</p>	<p>空き家・古民家再生の観点からの意見 ・出前講座の実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・気運の醸成 ・更地化も含めた活用手法の検討（駐車スペース、貸駐車場） ・地域の空き家の所在状況に合わせた地域ごとの方向性の検討と一体感の醸成

ポストイット	発言概要	実現への課題・障害
見本として発信 空き家バンクの発信 アドバイス コンサル マッチング まずは射水市から	空き家バンクの発信。情報発信を分かりやすく行う。(例えば 空き家の3D化、アドバイスをつけるなど)	<ul style="list-style-type: none"> ・担い手の確保
交付金 まず皆集まる 一つになる むずかしい？ D I Yツアー	空き家を活用したD I Yツアー	<ul style="list-style-type: none"> ・可能だが効果が不透明
富山県のスマホ保有率 全国2位	富山県のスマホの保有率は全国で2位(2021年)。	<ul style="list-style-type: none"> ・利活用の手法検討
アプリを使った「情報伝達」を	どのようなアプリを作るかが大きなポイントになる。アプリを使った情報伝達を広めないといけない	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者など普段利用しない人へのフォロー ・アプリ開発主体との連携・協力 ・コンテンツの運用管理、更新
双方向コミュニケーションツール	双方向情報発信(一方的に発信するだけでなく、双方向で)	<ul style="list-style-type: none"> ・実現可能(市公式L I N Eを運用中) ・どこ(誰)とどこ(誰)が ・情報の受け手の処理(対応)能力
電子回覧板の普及	地域を知る取り組みとして、電子回覧板やテレビで地域情報が分かるような施策を考えても良いと思う。	<ul style="list-style-type: none"> ・現在取組中(結ネット) ・発信主体、情報の鮮度・内容 ・受け手のリテラシー

ポストイット	発言概要	実現への課題・障害
小杉駅に人と街をつなぐ機能 関係人口や地域と結びついていない 定住者の宝庫 市域全体に波及させる 流れを生み出す	小杉駅に人とまちをつなぐ機能を持たせるべきだと思う。小杉駅はライトな関係の人の利用が多い。そういった方に情報発信し、縁を結ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・ハード整備の経費 ・小杉駅周辺地区まちづくり基本構想との整合
ぐるぐるタクシー	小学生など誰でも簡単に乗れる移動手段を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・エリアと事業効果及び財源の確保 ・既存公共交通との違い、差別化

【高齢者】

ポストイット	発言概要	実現への課題・障害
D X スマホ使えない人対策 テレビ画面、CATVでの方向 Y o u T u b eでの地域情報	D Xにテレビ画面の活用。高齢者はテレビが身近なので、災害時の字幕対応などできれば良いと思う。	<ul style="list-style-type: none"> ・システムの構築 ・テレビ機能による制約
「誰も取り残さない」ためのスマホ教室（高齢者向け）	そうすると高齢者が取り残される。そのための高齢者向けスマホ教室の開催。	<ul style="list-style-type: none"> ・実現可能（一般的なスマホ教室は各コミュニティセンターで携帯事業者を招いて実施中）
除雪を求めている人とアルバイトをしたい人のマッチング	除雪を求めている高齢者とバイトをしたい若者とのマッチングの仕組み。	<ul style="list-style-type: none"> ・行政事務の請負だけでよいのか ・管理主体の検討 ・買い物支援やほかの望まれるバイトの掘り起こし

【企業・事業所、経営者】

ポストイット	発言概要	実現への課題・障害
創業しやすい環境づくり 企業誘致	事業所を増やすことが重要。大きな会社を誘致して就労者を増やす	<ul style="list-style-type: none"> ・土地の確保 ・働きたいと思える企業の誘致 ・立地・創業の優位性
商業活性化 利便性だけでなく集客力のある店舗 個人店舗 若年層支援	商業の活性化も大事。日常生活は問題ないが、少し変わったことをしようとする市から出ていってしまう。個人的なお店を出したい人への支援体制を強化しても良いと思う。	<ul style="list-style-type: none"> ・既存商店との兼ね合い ・効果的な支援内容の検討
ベイエリアへのグランピングの誘致 (PFI方式) 民間主導で	ベイエリア周辺でグランピングの誘致ができないかと思っている。PFI(民間主導)でないと進まないと思う。	<ul style="list-style-type: none"> ・民間活力の導入
中京方面に近さを感じているので(高速により)物流を通じての人流もあるのでは (富山県人も多いと聞いている)	交通網の発達などで中京圏、名古屋が近くなったように感じている。そういったことを利用して、消費者と産地の交流や観光につなげられればと思う。	<ul style="list-style-type: none"> ・連携主体をどこに置くか
跡継ぎを探している人と経営者になってみたい人のマッチングアプリ	お店経営者の跡継ぎマッチングの仕組み。	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の民間の仕組みあり
コロナ禍だからこそ、サテライトオフィス誘致	首都圏など富山県外の人をターゲットにした2拠点生活(リモートワークの活用)	<ul style="list-style-type: none"> ・サテライトオフィスの確保

【市外在住者】(観光・移住)

ポストイット	発言概要	実現への課題・障害
二次交通をスムーズに	2次交通をスムーズにする	<ul style="list-style-type: none"> ・コースと拠点の設定
美味しい料理を食べさせる	美味しい料理のお店を増やす	<ul style="list-style-type: none"> ・支援の方法

ポストイット	発言概要	実現への課題・障害
仮想空間で射水市を紹介 →訪れたい	DXとして、仮想空間で射水市の強みをPRし見に来てもらうところから実際足を運んでもらうことにつながる。	<ul style="list-style-type: none"> ・実現可能
体験型の旅行 ・モノを造る ・地域の人のお話を聴く →つなぐ 地域の当たり前→物語	観光に関しては、団体旅行から、個人旅行に移行している。地域を知る、体験型の旅行を要請される。個人が求めているニーズは、地域のストーリーを聞きたいと言われる。空き家、グランピング、映画など個々のストーリーをつなげていくことが大事。	<ul style="list-style-type: none"> ・PR手法の検討 ・魅力的な体験コンテンツ創出に向けた連携・協力体制
大学の体育会 合宿誘致	首都圏の大学の合宿誘致 (新しい学生目線を取り入れる)	<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊施設のキャパシティ ・優位性、利便性の確保 ・活力につながる手法（地域との関わりなど）
地域の個々の魅力を ストーリーでつなぐ	「地域の個々の魅力をストーリーでつなぐ」ということに関連して提案。	<ul style="list-style-type: none"> ・実現可能
ストーリーとして発信していく	ストーリーとして発信していく	
ストーリーは難しく考えず、地域の当たり前でつなぐ	地元の当たり前を物語としていくことが、来てもらえるきっかけ、人の動きを作ることになると思う。	
企業のインターンシップに加え、農業・漁業体験を積極的に発信する（古民家滞在をセットにすると面白いかも）	観光以外で射水市に来られる方に対して、射水市をもっと知ってもらえる活動があると良いと思う。	<ul style="list-style-type: none"> ・パッケージの構築とPRの手法 ・農業者、漁業者との連携・協力、受入体制

ポストイット	発言概要	実現への課題・障害
<p>マイクロツーリズム 4番バッテリーの周辺のしぶい地域資源の発掘、ブラッシュアップ ライトな射水もディープな射水も厚みのある交流に</p>	<p>マイクロツーリズム対応として、ベイエリア周辺の渋いところを掘り起こすことが大切だと思う。ディープな射水市の魅力を掘り起こすべき。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 掘り起こした素材のPR
<p>映画の誘致を積極的に</p>	<p>映画の誘致</p>	<ul style="list-style-type: none"> 誘致組織の必要性
<p>首都圏の学生を対象に就労体験 (農・漁)</p>	<p>首都圏の学生を対象に就労体験</p>	<ul style="list-style-type: none"> ニーズの把握、参加者募集の手法 受入れ側の理解・協力
<p>古民家ホテル滞在ツアー</p>	<p>滞在型の体験施設(空き家活用)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 古民家ホテルの数の少なさ
<p>「農業」や「まちづくり」や「漁業」とかコンテンツを分けて、20~30代で各チームを作って発信材料をとってきてもらって一括編集する仕組みがあったら、より発信力があがる?かもしれない</p>	<p>農業やまちづくり、漁業などのコンテンツでチームとなり、どこかが一括編集・発信する仕組みづくりができれば良いと思う。(地域ぐるみで発信していく体制作り)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 仕組みづくりと取り組むべき主体の検討
<p>「フットボールセンター」の活用 合宿誘致</p>	<p>合宿誘致…4月(4/29)にオープンするフットボールセンターには、AIカメラとローカル5Gを設置している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 実施予定 宿泊施設のキャパシティ

ポストイット	発言概要	実現への課題・障害
<p>修学旅行の誘致とそれを通じた地方の豊かな生活の体験（教育旅行）</p> <p>→単なる観光資源だと競争相手が多いので</p>	<p>修学旅行の誘致をしてはどうか。立山町では、大阪の中学生に簡単な農業体験をしてもらい農家民泊を実施しており、秋や収穫時期に家族連れでもう一度訪れてくれるケースがある。多くの人に射水市に触れさせる、来てもらうキッカケ・仕組みがあると良いと思う。特別な観光地でなくても、生活の豊かさを感じてもらえれば、大人になってから思い出してもらえる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・パッケージの設定と募集の手法 ・受入れ側の理解・協力

【その他】（行政）

ポストイット	発言概要	実現への課題・障害
<p>ターゲット層にあった施策が必要</p>	<p>外から人を呼びたいというのと、地元の人が地元を良く知り発信するという両輪が必要だと感じた。良い記憶を良い状態でターゲットを絞って発信することが大事。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の対応の限界 ・個人の情報発信力
<p>射水市は「ゼロカーボンシティ」宣言を</p>	<p>射水市は「ゼロカーボンシティ宣言」しなければならないと思う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に取り組むべき事業の検討 ・市内の再生可能エネルギーのポテンシャル
<p>「自治体新電力」会社設立</p>	<p>富山県内で際立つ形になれば良いと思う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・経営の持続性 ・既存事業者との関係